

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	Pronunciation & SpeakingIV		(NCR24S)
講義名 (コード)	Pronunciation & SpeakingIV		(NCR24SX)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	To become comfortable speaking English in social and professional settings.
全体の内容と概要	Textbook work, group discussion activities, one on one conversation activities.
授業時間外の学修	Discussion preparation and research.
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Introduction.	Introduction of class, textbook, teacher, and class expectations.
2	Can express critical ideas.	Textbook Chapter 1. Study the language used to express ideas and importance.
3	Can explain skills and talents.	Textbook Chapter 1. Practice describing personal skills and talents.
4	Can ask for repetition and explanation.	Textbook Chapter 1. Listening activities and group work to practice asking for clarification and repetition.
5	Can understand and communicate main ideas.	Textbook Chapter 2. Listening activities and group work to practice communicating main ideas and themes.
6	Can express support for a suggestion or opinion.	Textbook Chapter 2. Conversation work with a focus on expressing opinion and explaining personal views.
7	Can relay information from notes.	Textbook Chapter 2. Activities focused on note taking and communicating notes clearly.
8	Can understand and express ideas of priority.	Textbook Chapter 3. Study language surrounding the expression of priority and importance.
9	Can express support for a suggestion or opinion.	Textbook Chapter 3. Further work expression reasons for personal opinion and suggestion.
10	Can express plans and future events.	Textbook Chapter 3. Students will create conversations around the topic of future plans and events.
11	Can listen for specific information and repeat.	Textbook Chapter 4. Listening activities focused on hearing and understanding specific information and repeating it back.
12	Can use and understand synonyms.	Textbook Chapter 4. Vocabulary work focused on the understanding and use of synonyms.
13	Exam Prep.	Final exam preparation and review.
14	Exam.	Final Exam.
15	Feedback.	Final exam feedback and Q&A.

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Q Skills: Listening and Speaking 1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	Reading & Vocabulary IV		(NCR24U)
講義名 (コード)	Reading & Vocabulary IVA		(NCR24UA)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1/2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	木村 みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	様々な題材の記事を読み、理解し、それについて意見を言えるようにする。
全体の内容と概要	文法を学びながら英文を読み、新しい単語や熟語を使って自分の意見を言う。
授業時間外の学修	単語・熟語練習
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Coffee and healthy life を読み理解できる。	自分の好きな飲み物について英語で発表し、本文を読む。
2	Coffee and healthy life を読み理解できる。	本文が正確に理解されているか確認。新しい単語・熟語を使って作文。
3	Pyramids of Egyptを読み理解できる。	今までに行ったことのある素晴らしい遺跡等について話し合い 本文を読む。
4	Pyramids of Egyptを読み理解できる。	本文が正確に理解されているか確認。新しい単語・熟語を使って作文。
5	Days of Showing your Loveを読んで理解できる。	valentine's Day の経験について話し、本文を読む。
6	Days of Showing your Loveを読んで理解できる。	本文が正確に理解されているか確認。新しい単語・熟語を使って作文。
7	Unique Careers を読んで理解できる	将来就きたい仕事について英語で話し、本文を読む。
8	Unique Careers を読んで理解できる	本文が正確に理解されているか確認。新しい単語・熟語を使って作文。
9	The Story of Medusaを読んで理解できる	今までに読んだ好きな小説について話し合い、本文を読む。
10	The Story of Medusaを読んで理解できる	本文が正確に理解されているか確認。新しい単語・熟語を使って作文。
11	Genetic Modification を読んで理解できる。	新しい薬の種類について知っていることを話し、本文を読む。
12	Genetic Modification を読んで理解できる。	本文が正確に理解されているか確認。新しい単語・熟語を使って作文。
13	Review	テスト対策
14	test	
15	FB	まとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Reading Success (SEIBIDO)
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	Reading & Vocabulary IV		(NCR24U)
講義名 (コード)	Reading & Vocabulary IVB		(NCR24UB)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1/2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	松尾 早苗	時間数	30
成績評価教員	松尾 早苗	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	長文読解のコツを身につけ抵抗なく取り組めるようになる
全体の内容と概要	テキスト+ニュースの記事を中心に読解のテクニックを学びスピードアップして読めるようになる
授業時間外の学修	単語力をつけるため1日5単語必ず覚える
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画	

回	到達目標	授業内容
1	前期復習	前期でやった内容総復習
2	300文字程度の長文読解が制限時間内のできるようになる	テキスト+ニュースなどの記事を読む
3	300文字程度の長文読解が制限時間内のできるようになる	テキスト+ニュースなどの記事を読む
4	300文字程度の長文読解が制限時間内のできるようになる	テキスト+ニュースなどの記事を読む
5	300文字程度の長文読解が制限時間内のできるようになる	テキスト+ニュースなどの記事を読む
6	300文字程度の長文読解が制限時間内のできるようになる	テキスト+ニュースなどの記事を読む
7	300文字程度の長文読解が制限時間内のできるようになる	テキスト+ニュースなどの記事を読む
8	300文字程度の長文読解が制限時間内のできるようになる	テキスト+ニュースなどの記事を読む
9	300文字程度の長文読解が制限時間内のできるようになる	テキスト+ニュースなどの記事を読む
10	300文字程度の長文読解が制限時間内のできるようになる	テキスト+ニュースなどの記事を読む
11	300文字程度の長文読解が制限時間内のできるようになる	テキスト+ニュースなどの記事を読む
12	300文字程度の長文読解が制限時間内のできるようになる	テキスト+ニュースなどの記事を読む
13	テスト前復習	プリント
14	後期テスト	テスト
15	テスト解説	解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Meet the World 2026
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	GrammarIV		(NCR25A)
講義名 (コード)	GrammarIVA		(NCR25AA)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	木村みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	英語の基本となる文法を習得する
全体の内容と概要	文法の各項目を学び、実際にどのように使うのか、使われているのかを学習する
授業時間外の学修	英文を読んだり、文章を書いたりする際に構文に気をつける
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	関係代名詞を復習し理解確認する	ワークブックを使って確認する
2	関係副詞を理解できる	where/when/ why/ how の関係副詞を学ぶ
3	仮定法を理解し使えるようになる	直説法と仮定法の違いを学習
4	仮定法を理解し使えるようになる	wish/as if の使い方を学ぶ・未来の仮定法を学習
5	仮定法を理解し使えるようになる	if の省略・慣用句を学ぶ
6	疑問詞と疑問文を理解できる	直接疑問文と間接疑問文の違いを学習する
7	否定の使い方を理解できる	準否定(hardly/scarcely) や部分否定の使い方を学ぶ
8	時制の一致・直接話法・間接話法を理解できる	様々な例文で動詞を変化させ時制を一致させる場合を学ぶ
9	代名詞を理解できる	特にone/another/both/ neither等の使い方を学ぶ
10	前置詞を理解できる	各前置詞についてどのように使われるかを説明する
11	接続詞を理解できる	等位接続詞・従属接続詞を学び、実際に使った文章を書く
12	復習 1	関係詞～仮定法までの復習
13	復習 2	間接疑問文～時制・和法の転換までのまとめ
14	テスト	
15	FB	全体のまとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Evergreen English Grammar 23/ workbook
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	GrammarIV		(NCR25A)
講義名 (コード)	GrammarIVB		(NCR25AB)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	松尾 早苗	時間数	30
成績評価教員	松尾 早苗	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	文法の基礎を身につけることでTOEICなどの点数アップに繋げる
全体の内容と概要	テキストを中心に高校3年間でならった文法を総復習
授業時間外の学修	授業外で1日最低3単語を覚える
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画	

回	到達目標	授業内容
1	前期内容が身についている	前期内容復習
2	疑問文と助動詞を理解する	テキスト+プリント
3	不定詞を理解する	テキスト+プリント
4	不定詞を理解する	テキスト+プリント
5	動名詞の使い方を理解する	テキスト+プリント
6	動名詞の使い方を理解する	テキスト+プリント
7	動名詞とto 不定詞の違いを理解する	テキスト+プリント
8	冠詞と名詞を理解する	テキスト+プリント
9	代名詞を理解する	テキスト+プリント
10	関係代名詞を理解する	テキスト+プリント
11	形容詞と副詞を理解する	テキスト+プリント
12	接続詞と前置詞を理解する	テキスト+プリント
13	テスト前総復習	テキスト+プリント
14	後期テスト	テスト
15	テスト解説	解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	マーフィーのケンブリッジ英文法
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	通訳演習Ⅱ	(NCR25C)
講義名 (コード)	通訳演習ⅡA	(NCR25CA)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年 2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数 2
授業担当者	木村みゆき	時間数 30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間 秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	通訳を通して英語と日本語のコミュニケーションをスムーズに取れるようにする
全体の内容と概要	リテンション・サマライズ・ノートテイキングなど通訳に必要なスキルを学ぶ。例文を繰り返し発話することで使える表現を定着させクイックレスポンスができるように訓練する
授業時間外の学修	シャドーイングやリピーティングなど自分でできることは普段から実践する
履修上の注意事項等	積極的な会話を心掛ける

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	比較級を使った文章に重点を置き訳すことができる	テキストのpassageを理解し訳す
2	自然な日本語で訳せるようにする	自然な日本語になるよう意識して訳す練習
3	so thatの構文に注意して読める	テキストのpassageの内容を理解し、例文をクイックレスポンスで訳す。
4	ホテルの予約を通訳できる	テキストのpassageの内容を理解し、例文をクイックレスポンスで訳す。
5	rarely,hardlyに気をつけて文章を訳せる	テキストのpassageの内容を理解し、例文をクイックレスポンスで訳す。
6	suggestを使ったひょうげんんを使える	テキストのpassageの内容を理解し、例文をクイックレスポンスで訳す。
7	There was no~のようなno~を使った表現を使える	テキストのpassageの内容を理解し、例文をクイックレスポンスで訳す。
8	知覚動詞+0+現在分詞を使った文を通訳できる	テキストのpassageの内容を理解し、例文をクイックレスポンスで訳す。
9	wouldの色々な表現を使い分けられる	テキストのpassageの内容を理解し、例文をクイックレスポンスで訳す。
10	インタビューをしたり、受けたり、通訳したりできる	インタビューの通訳者になる練習をする
11	プレゼンテーションをする・それを訳すことができる①	プレゼンテーションを通訳する
12	プレゼンテーションをする・それを訳すことができる②	プレゼンテーションを通訳する
13	復習	テスト対策
14	テスト	
15	FB	まとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	どんどん話すための瞬間英作文トレーニング・ぐんぐん英語力アップするパッケージトレーニング
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	通訳演習Ⅱ		(NCR25C)
講義名 (コード)	通訳演習ⅡB		(NCR25CB)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	松尾 早苗	時間数	30
成績評価教員	松尾 早苗	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	簡単な通訳 (英語→日本語) を自信を持ってできるようになる
全体の内容と概要	ロールプレイ中心で実務形式の授業を行う
授業時間外の学修	リスニングスキルを高めるため毎日10分英語の動画を視聴する (youtube, テレビの副音声で英語、などツールは問わず内容も自分の好きなものでOK)
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画	

回	到達目標	授業内容
1	前期の復習	前期の内容を総復習
2	シャドーイング強化	シャドーイング～メモ取り練習～テキスト～演習
3	メモ取り強化	シャドーイング～メモ取り練習～テキスト～演習
4	リテンション強化	シャドーイング～メモ取り練習～テキスト～演習
5	トラブル発生時の通訳ができる (E→J)	シャドーイング～メモ取り練習～テキスト～演習
6	簡単な商談の通訳ができる (E→J)①	シャドーイング～メモ取り練習～テキスト～演習
7	簡単な商談の通訳ができる (E→J)②	シャドーイング～メモ取り練習～テキスト～演習
8	短いインタビュー通訳ができる (E→J)	シャドーイング～メモ取り練習～テキスト～演習
9	トラブル発生時の通訳ができる (J→E)	シャドーイング～メモ取り練習～テキスト～演習
10	簡単な商談の通訳ができる (J→E)①	シャドーイング～メモ取り練習～テキスト～演習
11	簡単な商談の通訳ができる (J→E)②	シャドーイング～メモ取り練習～テキスト～演習
12	通訳コンテストを開催し通訳技術を競える	グループでコンテストを行い優勝グループを決める
13	テスト前復習	前期総復習
14	前期テスト	テスト
15	テスト解説	解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	どんどん話すための瞬間英作文トレーニング
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	Discussion II		(NCR25E)
講義名 (コード)	Discussion II		(NCR25EX)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	PIERCE WILLIAM TROY	時間数	30
成績評価教員	PIERCE WILLIAM TROY	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	For students to learn to debate. That is, to express themselves well in English, to be able to listen to other people's ideas, form opinions and make intelligent arguments.
全体の内容と概要	Practicing discussion, debate and also general English use.
授業時間外の学修	I don't expect them to do homework, but they will have the option of doing research out of class to improve their knowledge. I will provide them time in class to research debate topics.
履修上の注意事項等	During discussion and debate times, they will be expected to leave their phones on top of their desks. During research and study times they will be allowed to use their smart phones as study tools.

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Introduction to Debate	Parts of a debate. Debate rules and methods.
2	Research for Debate	Introduction to debate research and organization.
3	Organization for Debate	Organization and writing for group debate.
4	Responding to an Argument	Instruction and practice responding to an argument in a debate.
5	Defending a Position	Instruction and practice defending an argument in a debate.
6	Debate Practice	Practice debate with critique.
7	Debate	Group debate day.
8	Discussing Current Events	Using current events in conversation.
9	Group One Current Events	Group one delivery of current events with discussion.
10	Group Two Current Events	Group two delivery of current events with discussion.
11	Group Three Current Events	Group three deliver of current events with discussion.
12	Final Exam Prep	Choose and develop topics for final exam discussions.
13	Final Exam Prep	Writing and practice for final exam discussions.
14	Final Exam	Final Exam Discussions
15	Feedback	Feedback for exam and class.

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	No textbook
参考文献・資料等	Powerpoint, worksheets and video materials will be provided by teacher. Students will need a notebook for class notes.
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	社会学Ⅱ	(NCR25G)
講義名 (コード)	社会学Ⅱ	(NCR25GX)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年 2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数 2
授業担当者	堀 文	時間数 30
成績評価教員	堀 文	講義期間 秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	社会問題について理解を深める。他人事ではなく自分の事として社会問題について意見交換をする。
全体の内容と概要	社会問題に関する動画や資料を見て理解をする。自分の意見を述べ、疑問点や解決策を話し合う。
授業時間外の学修	日常的に社会で起こる問題に対し、自分なりの意見を持つよう意識を高める。
履修上の注意事項等	特になし。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	戦争に関する理解が深まる。	戦争について考える。
2	戦争に関する理解が深まる。	戦争について考える。
3	戦争に関する理解が深まる。	戦争について考える。
4	戦争に関する理解が深まる。	戦争について考える。
5	SDGsに関する理解が深まる。	SDGsについて考える。
6	SDGsに関する理解が深まる。	SDGsについて考える。
7	SDGsに関する理解が深まる。	SDGsについて考える。
8	SDGsに関する理解が深まる。	SDGsについて考える。
9	差別に関する理解が深まる。	差別について考える。
10	差別に関する理解が深まる。	差別について考える。
11	差別に関する理解が深まる。	差別について考える。
12	差別に関する理解が深まる。	差別について考える。
13	差別に関する理解が深まる。	差別について考える。
14	期末テスト	期末テスト
15	フィードバック	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	Global Issue II		(NCR25I)
講義名 (コード)	Global Issue II		(NCR25IX)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	松尾 早苗	時間数	30
成績評価教員	松尾 早苗	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	国際人になるための基礎知識としての世界情勢を理解し国際感覚を身につける
全体の内容と概要	春学期からの展開～解決策共創案を考えてみる (多文化共生と未来へのアクション)
授業時間外の学修	新聞、ニュースに関心を持って毎日観る/読む
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画	

回	到達目標	授業内容
1	春学期の内容を理解している	春学期の復習
2	パートナーシップの力を理解する	連携の重要性 企業・自治体・個人の協力事例を学ぶ
3	多文化共生の重要性を類解する	上田で暮らす留学生の視点をもとに多文化共生の最善策を考える
4	エシカル消費について理解する	買い物による社会貢献を実践する 応援したい企業や商品を選び紹介
5	デザイン思考について理解する	課題解決のための思考法を習得する 共感から始まる解決案の作成演習
6	地方創生について理解する	地域課題を解決する持続可能な形 日本の地方でのSDGs先進事例
7	効果的な伝え方、発信の仕方を理解する	相手に響く発信方法を工夫する。 SNSやポスターによる啓発を企画。
8	世界の未来を想像できる	未来年表作成 2030年の世界の姿を予測する 目標達成時の社会を想像し描く
9	紛争のない社会への仕組みを 考えることができる	平和と公正 世界の紛争情勢と人権保護の仕組み
10	世界の移動の背景と共生を考 えることができる	移民と難民 難民問題の現状と受け入れの課題
11	学習成果を発信できる	「私のサステイナブル宣言」発表会
12	アクションプランを考えるこ とができる	学びを明日からの行動へ繋げることを目標に アクションプランをまとめる
13	後期内容復習	復習プリント
14	期末テスト	後期内容のテスト
15	フィードバック・まとめ	テスト結果とフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	自分ごとからはじめよう SDGs探求ワークブック～旅して学ぶサステイナブルな考え方
参考文献・資料等	るるぶ地図でよくわかる世界の国大百科
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	中国語初級Ⅱ	(NCR25L)
講義名 (コード)	中国語初級Ⅱ	(NCR25LX)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年 2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数 2
授業担当者	姚 海玲	時間数 30
成績評価教員	姚 海玲	講義期間 秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	就職時に役立つようにHSK2級の習得を目指し、中国語の基本的な能力を身につける
全体の内容と概要	教科書の内容に沿って行い、練習問題を多く解く
授業時間外の学修	宿題を課す
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	UNIT3の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	「時刻や時間の言い方について」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題学ぶ
2	UNIT4の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	年月日・3けた以上の数字について」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題で学ぶ
3	UNIT5の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	「数量の表見、量詞の使い方について(1)」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題で学ぶ
4	UNIT6の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	「数量の表見、量詞の使い方について(2)」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題で学ぶ
5	UNIT7の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	「中国語の前置詞、介詞について(1)」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題で学ぶ
6	UNIT8の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	中国語の前置詞、介詞について(2)」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題で学ぶ
7	UNIT9の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	「中国語の助動詞、能願動詞について(1)」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題で学ぶ
8	UNIT10の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	中国語の助動詞、能願動詞について(2)」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題で学ぶ
9	UNIT11の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	「動詞述語文の用法について」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題で学ぶ
10	UNIT12の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	「副詞の使い方について」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題で学ぶ
11	UNIT13の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	疑問代詞を使った疑問文について」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題で学ぶ
12	UNIT14の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	「『了』の用法について」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題で学ぶ
13	UNIT15の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	「進行のアスペクトについて」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題で学ぶ
14	まとめと解説	テスト対策
15	まとめと解説	テスト対策

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	HSK公認テキスト2級 改訂版
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネス英語Ⅳ	(NKT24V)
講義名 (コード)	ビジネス英語ⅣA	(NKT24VA)
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	英語キャリアコース / Webマーケティングコース / 観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	高野 恵	時間数 30
成績評価教員	高野 恵	講義期間 秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	実務場面において、注文対応、予約対応、提案や案内などを英語で行えるようになることを目標とする。
全体の内容と概要	レストランやホテル、観光案内などを想定した業務シーンを通して、注文対応、予約対応、問題対応、提案表現など、実務に直結する英語表現を学習する。
授業時間外の学修	授業内容を振り返り、業務場면을想定した発話練習やリスニングを行うこと。
履修上の注意事項等	春学期の学習内容を基礎として進行するため、復習を行ったうえで授業に取り組むこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	飲食店で注文の確認や応対ができるようになる	Unit4 Are You Ready to Order?
2	数量や提供状況について正確に確認できるようになる	Unit5 Do We Have Enough Wine?
3	顧客の要望に応じて商品や料理を提案できるようになる	Unit6 I'll Try the Sashimi
4	飲食店での一連の接客対応ができるようになる	Review Units 4-6
5	宿泊施設での予約対応ができるようになる	Unit7 I'd Like to Book a Room
6	商品やお土産について説明・案内ができるようになる	Unit8 I'm Looking for a Souvenir
7	顧客の困りごとを聞き取り、状況を把握できるようになる	Unit9 What Seems to Be the Problem?
8	サービス業務に応じた適切な対応ができるようになる	Review Units 7-9
9	依頼内容を理解し、必要な対応を説明できるようになる	Unit10 Can You Tell Me What to Do?
10	提案や助言を業務英語として丁寧に伝えられるようになる	Unit11 I Suggest Going to Shibuya
11	観光地・施設について分かりやすく説明できるようになる	Unit12 Where Do You Recommend I Go?
12	案内・提案を含む対応を円滑に行えるようになる	Review Units 10-12
13	実務場面を想定した総合的な応対ができるようになる	総復習
14	秋学期の内容を実務英語として運用できるようになる	期末テスト
15	学習成果を振り返り実務に向けた課題を整理できるようになる	テストフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Speaking of Hospitality
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネス翻訳Ⅱ		(NKT25B)
講義名 (コード)	ビジネス翻訳ⅡA		(NKT25BA)
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / Webマーケティングコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	松尾 早苗	時間数	30
成績評価教員	松尾 早苗	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	簡単な商談が英文メールでできるようになる (問い合わせ、クレーム処理、アポイント、案内、通知)
全体の内容と概要	春学期に英文メールの和訳、秋学期に日本語を英文メールにする演習を行う
授業時間外の学修	授業で学んだビジネス特有の表現、単語を復習
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

--	--	--	--

回	到達目標	授業内容
1	前期の内容がきちんと身についている	前期内容復習
2	アポイントメント依頼メールを英文で作成できる	特殊表現を学んだ後、実際に英文メールを作成
3	アポイントメント依頼メールを英文で作成できる	特殊表現を学んだ後、実際に英文メールを作成
4	出張手配依頼メールを英文で作成できる	特殊表現を学んだ後、実際に英文メールを作成
5	クレームメールに英文で対応できる	特殊表現を学んだ後、実際に英文メールを作成
6	社内連絡メールを英文で作成できる	特殊表現を学んだ後、実際に英文メールを作成
7	社外連絡メールを英文で作成できる	特殊表現を学んだ後、実際に英文メールを作成
8	社交辞令メールを英文で作成できる	特殊表現を学んだ後、実際に英文メールを作成
9	社交辞令メールを英文で作成できる	特殊表現を学んだ後、実際に英文メールを作成
10	営業メールを英文で作成できる	特殊表現を学んだ後、実際に英文メールを作成
11	ハウレンソウを英文で作成できる	特殊表現を学んだ後、実際に英文メールを作成
12	総復習	プリント
13	テストの準備	プリント
14	後期テスト	テスト
15	テスト解説	解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	英文ビジネスEメール実例・表現1200
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	TOEIC対策Ⅳ		(NKT25D)
講義名 (コード)	TOEIC対策ⅡA		(NKT16JA)
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / Webマーケティングコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	TOEIC500点を旨す。
全体の内容と概要	TOEICテストの概要を知り、基礎を復習しながら確実に問題を解けるようにする。
授業時間外の学修	新しい語彙・フレーズの復習をし、会話文などの音読練習をする。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	リーディングパートの模試問題を解く	リーディングパートの模試問題を解く。
2	Part5の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part5の復習。
3	Part6の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part6の復習。
4	Part7の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part7の復習。
5	Part7の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part7の復習。
6	リスニングパートの模試問題を解く	模試問題Part1の復習。
7	Part1の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part2の復習。
8	Part2の解答と解説が理解できるようになる	過去問題を通して自分の達成度を判断し、これからの勉強法を考える。
9	Part3の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part3の復習。
10	Part3+4の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part3+4の復習。
11	Part4の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part4の復習。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC® L&R TEST Book 2: Intermediate
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TOEIC対策Ⅳ		(NKT25D)
講義名 (コード)	TOEIC対策ⅡB		(NKT16JB)
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / Webマーケティングコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	松尾 早苗	時間数	30
成績評価教員	松尾 早苗	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	TOEIC600点を達成する
全体の内容と概要	練習問題を繰り返し解きテクニックを身につける
授業時間外の学修	単語復習を繰り返す
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

--	--	--

回	到達目標	授業内容
1	前期の内容が身につけていることを確認できる	前期内容確認
2	Part 1 をスピードアップして解けるようになる	単語～問題の説明～練習問題～答え合わせ
3	Part 1 をスピードアップして解けるようになる	単語～問題の説明～練習問題～答え合わせ
4	Part 2 をスピードアップして解けるようになる	単語～問題の説明～練習問題～答え合わせ
5	Part 3 をスピードアップして解けるようになる	単語～問題の説明～練習問題～答え合わせ
6	Part 4 をスピードアップして解けるようになる	単語～問題の説明～練習問題～答え合わせ
7	Part 5 をスピードアップして解けるようになる	単語～問題の説明～練習問題～答え合わせ
8	Part 6 をスピードアップして解けるようになる	単語～問題の説明～練習問題～答え合わせ
9	Part 7 をスピードアップして解けるようになる	単語～問題の説明～練習問題～答え合わせ
10	全パートを通してスピードアップして解けるようになる	単語～問題の説明～練習問題～答え合わせ
11	全パートを通してスピードアップして解けるようになる	単語～問題の説明～練習問題～答え合わせ
12	テスト前総復習	間違えやすい箇所、定着していない箇所を中心に復習
13	テスト前総復習	間違えやすい箇所、定着していない箇所を中心に復習
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テストフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	『TOEIC® L&Rテスト 全パート完全攻略 問題集』
参考文献・資料等	『TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ』（朝日新聞出版）
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名(コード)	ビジネスコンピューティングⅣ		(NKT25F)
講義名(コード)	ビジネスコンピューティングⅣA		(NKT25FA)
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース/WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	東京コンピューター(株)、東京精電(株) 歴任	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	習得したOfficeの応用力をさらに高め、資格試験対策を通して実務レベルの操作精度と知識を身につける。生成AIを活用した資料作成方法や業務効率化の考え方を学ぶ。
全体的内容と概要	各自のレベルに合わせた検定対策と実務的な資料作成演習を行う。 生成AIを活用したテンプレート作成を通して実務スキルの向上を図る。
授業時間外の学修	資格試験対策として操作内容や模擬問題の復習・練習に取り組んでください。 生成AIを用いた課題について自宅でも編集・改善を行い実務的な操作力を高めてください。
履修上の注意事項等	検定試験はいつでも受験できます。受験日を意識して計画的に学習してください。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識(期末試験点) 60%	自己管理能力(出席点) 30%	協調性・主体性・表現力(平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画			
回	到達目標	授業内容	
1	金額を正しく計算できる 見積書を作成することができる	見積書の作成 (金額・値引きの計算・消費税の計算)	後半 検定対策 模擬試験プログラムを活用して学習する 自分のレベルに合わせて選択 随時、検定試験を受験する
2	シートコピーと書式・計算式の引き継ぎができる	納品書・請求書の作成 (シートのコピー・書式の編集)	
3	小計・VLOOKUP関数を利用してデータを効率的に整理・分析できる	売上リスト作成(リスト集計・VLOOKUP関数・金額の計算)	【MOS Excel Expert または 日商PC3級・2級】 ブック管理から高度な数式・グラフ・テーブル作成、データ表示形式やレイアウト設定等を総合的に学習する
4	複数のシートを整理して集計・管理ができる	3-D参照を使った複数シートの計算	
5	生成AIを活用して管理表の基礎構造を作成できる	生成AIを利用してダッシュボード作成① 個人支出管理表を作成する	
6	生成されたデータを確認し修正できる	生成AIを利用してダッシュボード作成② 生成されたデータを確認・修正	
7	生成AIで効率的に作成データを迅速に把握できる	生成AIを利用してダッシュボード作成③ 個人支出管理表を完成させる	【MOS Word Expert または 日商PC3級・2級】 文書管理から文字・段落・セクションの編集、表やリストの扱い、参考資料やグラフィック要素の作成、共同作業の管理等を総合的に学習する
8	生成AIで英文の下書きを作成できる	生成AIを利用した文書作成① 海外向けの報告書を作成	
9	生成AIが作成した下書きを検証・校正できる	生成AIを利用した文書作成② 翻訳機能を使って改善点を修正	
10	生成AIで効率的に文書を作成・推敲できる	生成AIを利用した文書作成③ 報告書を完成させる	【MOS PowerPoint または 日商PC3級・2級】 プレゼンテーションとスライドの管理、画像・図形の編集、表やグラフなど多様な要素の挿入、アニメーション設定等を総合的に学習する
11	生成AIを活用して内容を整理できる	生成AIを用いて2年間の学習内容を整理、まとめの構成案を作成する	
12	生成AIで内容を充実させ資料を形にできる	Word・Excel・PowerPointいずれかでまとめ資料を作成・改善する	
13	資料を仕上げ、発表する完成版を作成できる	資料を発表用データとして完成させる	
14	まとめと解説	期末テスト	
15	まとめと解説	テストF B	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	30時間でマスターOffice2021
参考文献・資料等	各問題集の練習問題、レベルに応じた資格試験の練習問題
備考	担当教員はIT業界での実務経験を活かし、Microsoft Office製品各種の操作を体系的に指導する

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	キャリアデザインⅣ	(NKT25H)
講義名 (コード)	キャリアデザインⅣA	(NKT25HA)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年 2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数 2
授業担当者	石田 浩也	時間数 30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間 秋学期
実務者教員	はい	履修区分 必修
実務者教員特記欄	キャリアコンサルタント、 合同会社ライトハウス・キーパーズ代表	授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体の内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会&面接会参加 (WEB含む)
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	出席率70%以上の者を期末試験の受験対象者とし、授業への参加態度や学習意欲も評価の対象とする		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業内容の理解	【オリエンテーション】 後期の内容について説明、心構え 【演習】 進路希望、希望職種、ガイダンス予約
2	インターンシップの振り返りができる	【インターンシップ】 インターンシップについての復習 【演習】 インターンシップの反省キャリア面談、応募先企業シート作成
3	就職活動スケジュールが理解できる	【就職情報説明】 就職活動スケジュール、必要書類、スキル、準備物 【演習】 キャリア面談 応募先企業シート作成
4	就職活動の計画が作成できる (1)	【行動計画立案】 応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】 キャリア面談 就職活動行動計画表作成
5	就職活動の計画が作成できる (2)	【行動計画立案】 応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】 キャリア面談 就職活動行動計画表作成
6	就職活動の計画が作成できる (3)	【行動計画立案】 応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】 キャリア面談 就職活動行動計画表作成
7	就職内定先企業への提出書類について理解できる(1)	【内定書類】 就職内定後の提出書類、提出方法、準備物など 【演習】 内定書類記入 誓約書、内定受諾書、個人情報書類の署名捺印
8	就職内定先企業への提出書類について理解できる(2)	【内定書類】 就職内定後の提出書類、提出方法、準備物など 【演習】 内定書類記入 誓約書、内定受諾書、個人情報書類の署名捺印
9	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる。(1)	【入社前研修】 研修の目的、研修内容、研修への関わり方 【演習】 仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
10	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる。(2)	【入社前研修】 入社時書類、労働条件(給料、時間、休日、勤務地) 【演習】 仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
11	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる。(3)	【入社前研修】 社会人のマナー、コンプライアンス 【演習】 仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
12	日本企業の仕事について理解できる。(1)	【日本の企業】 1日、1か月、1年間の仕事の流れ 【演習】 仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
13	日本企業の仕事について理解できる。(2)	【日本の企業】 職場でのコミュニケーション 【演習】 仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
14	まとめと対策	【テスト】 記述式 【テスト】 回収
15	まとめと対策	【テスト返却】 フィードバックと解説 【振り返り】 講義の振り返り、まとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『就職内定基本テキスト』(日本能率協会マネジメントセンター)
参考文献・資料等	適宜プリント、就活に関するニュースなどの情報シェアを行う
備考	担当教員はキャリアコンサルタントとしての実務経験を活かし、就職内定へ向けての実践的なカリキュラム運営を行う

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	キャリアデザインⅣ	(NKT25H)	
講義名 (コード)	キャリアデザインⅣE	(NKT25HE)	
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース/観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	若林 繁実	時間数	30
成績評価教員	若林 繁実	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体の内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会&面接会参加 (WEB含む)
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業内容の理解	【オリエンテーション】 講師紹介後期の内容について説明、心構え 【演習】 進路調査 Cam-J 進路希望、希望職種、ガイダンス予約
2	インターンシップの振り返りができる	【インターンシップ】 インターンシップについての復習 【演習】 インターンシップの反省キャリア面談、応募先企業シート作成
3	就職活動スケジュールが理解できる	【就職情報説明】 就職活動スケジュール、必要書類、スキル、準備物 【演習】 キャリア面談 応募先企業シート作成
4	就職活動の計画が作成できる (1)	【行動計画立案】 応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】 キャリア面談 就職活動行動計画表作成
5	就職活動の計画が作成できる (2)	【行動計画立案】 応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】 キャリア面談 就職活動行動計画表作成
6	就職活動の計画が作成できる (3)	【行動計画立案】 応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】 キャリア面談 就職活動行動計画表作成
7	在留資格制度、申請について理解できる (1)	【在留資格】 就職在留資格制度、特定活動について説明、必要書類説明 【演習】 在留資格変更申請書記入、準備物確認
8	在留資格制度、申請について理解できる (2)	【在留資格】 就職在留資格制度、特定活動について説明、必要書類説明 【演習】 在留資格変更申請書記入、準備物確認
9	就職内定先企業への提出書類について理解できる (1)	【内定書類】 就職内定後の提出書類、提出方法、準備物など 【演習】 内定書類記入 誓約書、内定受諾書、個人情報書類の署名捺印
10	就職内定先企業への提出書類について理解できる (2)	【内定書類】 就職内定後の提出書類、提出方法、準備物など 【演習】 内定書類記入 誓約書、内定受諾書、個人情報書類の署名捺印
11	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる。(1)	【研修】 研修の目的、研修内容、研修への関わり方 【演習】 仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
12	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる。(2)	【入社前研修】 入社時書類、労働条件(給料、時間、休日、勤務地) 【演習】 仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
13	日本企業の仕事について理解できる。(1)	【日本の企業】 1日、1か月、1年間の仕事の流れ 【演習】 仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
14	まとめと対策	【テスト】 記述式 【テスト】 回収
15	まとめと対策	【テスト返却】 フィードバックと解説 【振り返り】 講義の振り返り、まとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『留学生のための就職内定ワークブック』(一般社団法人留学生支援ネットワーク)
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	卒業研究	(NKT25J)
講義名 (コード)	卒業研究A	(NKT25JA)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年 2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数 1
授業担当者	高野 恵	時間数 30
成績評価教員	高野 恵	講義期間 秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	前期習ったプレゼンテーションの作り方をもとに、卒業発表会で行うプレゼンテーションを完成させる。
全体の内容と概要	前期習ったプレゼンテーションの作り方をもとに、卒業発表会で行うプレゼンテーションを作り練習する。
授業時間外の学修	卒業発表会の練習
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	情報収集の仕方を習得できるようになる	情報収集、Visual Aidsのタイプ・使い方を学び、プレゼンテーションの構造、スキル、書き方などの復習をする。
2	卒業研究のテーマを決めることができる	先学期にならった方法に基づいて卒業研究の題材を絞り込む。
3	卒業研究のストラクチャーを作ることができる	卒業研究のストラクチャーを考えチャートを作る。
4	卒業研究のIntroductionを作ることができる	卒業研究のIntroductionである導入を書き上げる。
5	卒業研究のFirst Bodyを作ることができる	卒業研究のFirst Bodyを書き上げる。
6	卒業研究のSecond Bodyを作ることができる	卒業研究のSecond のBodyを書き上げる。
7	卒業研究のThird Bodyを作ることができる	卒業研究のThird Bodyを書き上げる。
8	卒業研究のConclusionを作ることができる	卒業研究のConclusionを書き上げる。
9	グループ毎、卒業研究発表の練習をする	eye contact, posture, voice, gestureなどを気をつけて、グループ毎練習をする。
10	クラス全体で卒業研究発表前の予行練習をする	eye contact, posture, voice, gestureなどを気をつけて、グループ毎練習をする。
11	クラス全体で卒業研究発表前の予行練習をする	eye contact, posture, voice, gestureなどを気をつけて、グループ毎練習をする。
12	クラス全体で卒業研究発表前の予行練習をする	eye contact, posture, voice, gestureなどを気をつけて、グループ毎練習をする。
13	修正・変更をした方がいい点を確認する	指摘を受けたところを修正する。
14	卒業研究発表前の総仕上げをする	修正した卒業研究発表の総仕上げをする。
15	卒業研究発表前の総仕上げをする	修正した卒業研究発表の総仕上げをする。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	Winning Presentations, Present Yourself 2
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネスプレゼンテーションⅡ	(NKT25L)
講義名 (コード)	ビジネスプレゼンテーションⅡA	(NKT25LA)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年 2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数 2
授業担当者	堀 文	時間数 30
成績評価教員	堀 文	講義期間 秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	パワーポイントを使いながら人前で自分の意見を発表することができる。見ている人がわかりやすいビジュアルツールを作成しプレゼンテーションを行う。様々な場面のビジネスシーンで役立てることができる。
全体の内容と概要	作成したPPTを使用し何度もプレゼンテーション練習を行う。PPTを作成する事だけでなく、正しい日本語を使って分かりやすい説明を行えるように話し方の練習もする。
授業時間外の学修	授業内だけでは発表準備が間に合わないため、家での練習も必要になる。
履修上の注意事項等	特になし。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	プレゼンテーションとは何かがわかる。	プレゼンテーションと何か。どんな場面でどのように使用するのか。例を見ながら正しいプレゼンテーションの方法を学ぶ。
2	プレゼンテーションをする前の準備の方法がわかる。	プレゼンテーション作成のステップ、注意する事などを学ぶ。PPTの使い方を学ぶ。
3	簡単なPPTを作成することができる。	写真を使った自己紹介PPTを作成する。
4	写真を使ったプレゼンができる。	PPTを使って自己紹介をする。
5	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンとは何かがわかる。	通信販売のプロモーションの方法とは何か。いくつかの動画を見て方法を見比べてみる。
6	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンができる。	身近な商品を使ってプロモーションを試みる。
7	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンができる。	PPTを使って顧客を獲得する新商品のプロモーションを考える。
8	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンができる。	新商品のプロモーションを発表する。
9	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンができる。	新商品のプロモーションを発表する。
10	グラフの作成ができる。	簡単なデータをもとに違う種類のグラフを作成する。
11	国際問題についての現状を理解することができる。	自分の興味のある現在起こっている国際問題について調べ、現状・問題の原因についてまとめる。
12	国際問題についての現状を理解することができる。	問題についてのデータを検索し、グラフ等を使ってわかりやすくPPTにまとめる。自分の意見を交えた問題の解決法を考える。
13	国際問題についてPPTを使い発表を行うことができる。	作成したPPTを使い発表練習を行う。
14	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 評価
15	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 評価

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	日本語コミュニケーションⅣ	(NKT25N)	
講義名 (コード)	日本語コミュニケーションⅣ A	(NKT25NA)	
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。 また、日本人同士のスピーディーな会話を聞き取ることができる。
全体の内容と概要	N1の読解、聴解の対策をしていく。
授業時間外の学修	読解問題の新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	年間を通して必ず1度はJLPTを受験することを必須とする。 未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	実践問題が理解できる1 2 いろいろなタイプの話の聞こう2	読解：統合理解 例題2 6 聴解：指示を聞こう
2	実践問題が理解できる1 3 いろいろなタイプの話の聞こう3	読解：統合理解 練習6 0 聴解：説明を聞こう
3	実践問題が理解できる1 4 いろいろなタイプの話の聞こう4	読解：統合理解 練習6 1 聴解：テーマやいいたいことを聞こう
4	実践問題が理解できる1 5 いろいろなタイプの話の聞こう5	読解：統合理解 練習6 2 聴解：まとめ問題
5	実践問題が理解できる1 6 いろいろな語彙や表現を覚えよう1	読解：統合理解 練習6 3 聴解：よく聞くカタカナを覚えよう①
6	実践問題が理解できる1 7 いろいろな語彙や表現を覚えよう2	読解：情報検索 例題2 7 聴解：よく聞くカタカナを覚えよう②
7	実践問題が理解できる1 8 いろいろな語彙や表現を覚えよう3	読解：情報検索 例題2 8 聴解：よく聞くカタカナを覚えよう②
8	実践問題が理解できる1 9 いろいろな語彙や表現を覚えよう4	読解：情報検索 練習6 4 聴解：言い換えの言葉を覚えよう
9	実践問題が理解できる2 0 いろいろな語彙や表現を覚えよう5	読解：情報検索 練習6 5 聴解：よく聞く表現を覚えよう
10	実践問題が理解できる2 1 いろいろな語彙や表現を覚えよう6	読解：情報検索 練習6 6 聴解：まとめ問題
11	実践問題が理解できる2 2 ま まとめ問題をやってみよう1	読解：情報検索 練習6 7 聴解：総まとめ問題1
12	実践問題が理解できる2 3 ま まとめ問題をやってみよう2	読解：情報検索 練習6 8 聴解：総まとめ問題2
13	実践問題が理解できる2 4 ま まとめ問題をやってみよう3	読解：情報検索 練習6 9 聴解：総まとめ問題3
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	完全マスター読解N1 日本語総まとめN1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	日本語資格対策Ⅳ		(NKT25P)
講義名 (コード)	日本語資格対策Ⅳ A		(NKT25PA)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	古風な表現を使った小説や論説文、やや専門的な説明を理解できるようになる
全体の内容と概要	日常生活はもちろん交渉をしたり様々なやりとりができるような文法と語彙を学ぶ
授業時間外の学修	新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	年間を通して必ず1度はJLPTを受験することを必須とする。 未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できる 2	文法：～かと思いきや ～んがため ～のごとく 文字語彙：文脈規定15回
2	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できる 3	文法：～にして ～だに ～～だにしなかった 文字語彙：文脈規定16回
3	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できる 4	文法：～かねる ～を限りに CHECK 文字語彙：17回
4	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できる 5	文法：まとめの問題 文字語彙：文脈規定17回
5	やや専門的な説明を聞いて、その内容や発話者の意見が理解できる1	文法：～からいる ～にかかわる ～にあつて 文字語彙：文脈規定18回
6	やや専門的な説明を聞いて、その内容や発話者の意見が理解できる2	文法：～ようによって（は） まとめの問題 文字語彙：文脈規定19回
7	古風な表現を使った論説文を読み、表現に込められた筆者の主張が理解できる1	文法：～べからず ～のみ ～がゆえ 文字語彙：文脈規定20回
8	古風な表現を使った論説文を読み、表現に込められた筆者の主張が理解できる2	文法：～と相まって ～にかたくない 文字語彙：言い換え類義1回
9	古風な表現を使った論説文を読み、表現に込められた筆者の主張が理解できる3	文法：～としてあるまじき ～ずにはすまない 文字語彙：言い換え類義2回
10	古風な表現を使った論説文を読み、表現に込められた筆者の主張が理解できる4	文法：～でなくてなんだろう ～極まりない 文字語彙：言い換え類義3回
11	古風な表現を使った論説文を読み、表現に込められた筆者の主張が理解できる5	文法：～を禁じえない ～にたる 文字語彙：言い換え類義4回
12	古風な表現を使った論説文を読み、表現に込められた筆者の主張が理解できる6	文法：～べくもない ～なくして 文字語彙：言い換え類義5回
13	古風な表現を使った論説文を読み、表現に込められた筆者の主張が理解できる7	文法：CHECK 文字語彙：言い換え類義6回
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	ドリル&ドリルN1文字語彙 TRYN1
参考文献・資料等	
備考	